

## 2005年10月期中間業績について

### 1. 業績報告

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善により民間設備投資および個人消費も増加する等、回復傾向にありますが、原油等素材価格の高騰など、景気の先行きに不安を残したまま推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、企業価値を向上させるべく、製品の市場競争力の強化に注力してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結売上高は 7,481 百万円(前年同期比 18.3%増)となりました。また利益面では、経常利益 770 百万円(前年同期比 21.3%増)、中間純利益 497 百万円(前年同期比 37.9%増)となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 猟銃事業

主力の米国市場は引き続き好調を持続しております。販売数量は上下二連銃を中心に前年同期に対し 12%増となり、売上高、営業利益ともにほぼ計画どおりとなりました。以上の結果、売上高は 3,888 百万円(前年同期比 17.7%増)、営業利益は 416 百万円(前年同期比 27.3%増)となりました。

#### 工作機械事業

自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が順調に推移しており、ほぼ計画どおりでありましたが、会計基準を従来の出荷基準から検収基準に変更したことから、機械部門の業績に一部影響が出ました。その結果、売上高は 1,479 百万円(前年同期比 2.6%減)、営業利益は 240 百万円(前年同期比 27.7%減)となりました。

#### 自動車関連事業

自動車業界は各社の相次ぐ新型車両の投入や積極的な販売活動により順調に推移しており、ウッド調ステアリングハンドルの出荷は減少しましたが、高付加価値製品の純木製ステアリングハンドルとシフトノブは搭載車種への装着率が増加したことにより計画を上回る業績となりました。その結果、売上高は 2,093 百万円(前年同期比 42.1%増)、営業利益は 14 百万円(前年同期比 67.6%増)となりました。

#### その他事業

その他事業につきましては、売上高は 25 百万円、営業利益は 2 百万円となりました。

### 2. 通期の見通し

下半期の見通しにつきましては、国内景気は底堅く回復傾向で推移するものと思われませんが、原油価格の高騰や為替動向などの懸念材料も多く、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような環境のもと、猟銃事業におきましては、部品調達先の火災により、一部の機種に部品の遅れが生じ、減産せざるを得ない状況が見込まれます。しかしながら、グループ一体となった収益改善活動の展開によりこの影響を最小限に抑えるとともに、自動車関連事業の好業績等により、公表数字を達成できる見通しであります。

当社はグループ企業の持株会社として、グループ企業全体の成長性と収益性を見極め、各々の事業分野で市場ニーズにあった事業戦略を立案し、機動的な対応により競争力を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。

通期の業績予想といたしましては、当初の計画通り売上高 15,000 百万円(前期比 9.0%増)、経常利益 1,500 百万円(前期比 7.1%増)、当期純利益 900 百万円(前期比 9.1%増)を見込んでおります。